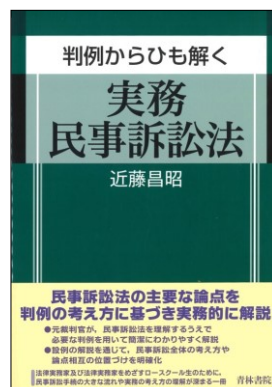




判例からひも解く 実務民事訴訟法

近藤昌昭 著

A5判/320頁/定価（本体4,200円）＋税/978-4-417-01858-2



民事訴訟法の主要な論点を判例の考え方にに基づき実務的に解説

- 元裁判官が、民事訴訟法を理解するうえで必要な判例を用いて簡潔にわかりやすく解説！
- 設例の解説に加え、民事訴訟全体の考え方や論点相互の関係にも言及！法律実務家をめざす方のために、実務の考え方や民事訴訟手続の大きな流れについて理解が深まる一冊！

目次

- 第1章 序論
- 第2章 訴訟行為の解釈（私法上の効果との関係）
- 第3章 処分権主義
- 第4章 既判力
- 第5章 審理
- 第6章 訴訟要件
- 第7章 多数当事者に関する問題

◆内容の詳細は、青林書院 HP でご確認ください。

<http://www.seirin.co.jp>

はしがきから抜粋

民事訴訟は、公法に属しながら、扱う内容が私人間の紛争であるから、私的自治の原則や民法等の実体法との関係の規律も重要であるが、手続法であるので、利用者にわかりやすく、公平な基準が要請される。そのため、利益衡量が前面に出ることは控えるべき分野である。その意味で、概念設定を前提として論理的な解釈が要請される学問でもある。民事訴訟法が、一般の人にとってわかりにくいと感じさせる要因もそこにある。そのため、本書は、姉妹書の『判例からひも解く実務民法』と同様の手法で、設例を設けて解説を加えながら、民事訴訟全体の考え方や論点相互の関係にも言及する手法を採用した。このような体裁の方が、具体的なイメージを持ちやすく概念的な説明を重ねるよりも、はるかにわかりやすいと考えたからである。

本書を通じて、法律実務家はもとよりこれから法律実務家を目指す者にとって、民事訴訟における実務の考え方や大きな流れについて、理解が深まる一助になれば望外の幸せである。